

1 学校運営の中期目標

令和 8 (2026) 年度～令和 11 (2029) 年度

2

現状と課題

【現状】学力・体力においては、各調査結果を大阪市、大阪府、全国の平均値と比較することによって、現状を明確にする。

(1) 令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」において国語・数学とも全国平均正答率を裕に上回る結果を得た。

国↑0.7 数↑6.7 理科↑10.0 (全国比)

(2) 令和 7 年度「チャレンジテスト」は、全校的に府平均の正答率を上回る結果となる教科が多いが、学年間の差が見られることの改善を要す。

1 年 国↑2.9 数↑6.5 英↓1.7 理↓7.6 社↓3.7

(理・社はチャレンジテスト plus)

2 年 国↑6.5 社↓3.6 数↓0.4 理↑0.7 英↑0.7

3 年 国↑4.3 社↑0.8 数↑4.4 理↑3.3 英↑3.7

(3) GTEC による英語力調査については下表に記すとおり、特段の好結果を挙げている。

英語力調査 (GTEC)	B2	0 人	大学での専門教育を英語で学べるレベル
	B1	0 人	海外進学を視野に入れることができるレベル
	A2.2	0 人	海外の高校の授業に参加できるレベル
	A2.1	8 人	海外ホームステイや語学研修で楽しめるレベル
	A1.3	54 人	ALT と日常的な会話をし、英語体験を楽しめるレベル
	A1.2	36 人	身近な表現で簡単なコミュニケーションができるレベル
	A1.1	4 人	身近な単語や定型表現でコミュニケーションができるレベル
	Pre-A1	9 人	挨拶程度の簡単なコミュニケーションができるレベル

(4) 令和 7 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」【体力合計点】(中 2)

男子：35.72 (大阪市 41.69 全国 42.06)

女子：39.31 (大阪市 48.14 全国 47.46)

【課題】

(1) 【現状】(1)～(4)の結果において、全校的に成果水準をさらに上げていく。

(2) 学校環境に学力との相関関係を求める上で、次の点について注視する必要がある。

① “全市的にも極めて落ち着いた教育環境を維持する”という強い意識を全教職員で共有し、そのために必要な体制を構築し常態化する。

② 体罰・暴力行為ならびに生徒の人格を深く傷つける暴言(威圧言動)の未然防止と教育公務員としてのサービスの厳正に努める。

③ 生徒一人一人の状況に応じた学力・体力向上の施策を講じる。そのための継続的・持続的な教育改革・改善に努める。

④ 実用英語技能検定の全校受検や文章検定についても公費、準公費による実施を継続し、子どもたち自身の効果検証、モチベーションの向上に資するものとする。

中期目標 令和 8（2026）年度～令和 11（2029）年度

（中期目標＝令和 11 年度末をもつての達成目標）

【安全・安心な教育の推進】

- 1 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 2 年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 1 年度末の校内調査における「学級と生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上とする。
- 2 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。
- 3 大阪市英語力調査における CEFR（GTEC に読み替える）A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 80%以上とする。
- 4 年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 1 年度末目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 2 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 1 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(8.3%)より減少させる。
- 2 年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 道徳授業(年間 35 時間以上)を各学年教員によるローテーション授業として実施する。「先生は道徳心や社会性が養えるように、『道徳』などの授業を通じ、教えてくれている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 生徒会やクラブ活動等において、地域貢献も踏まえた取組みを展開する。
- 学校のリーダー育成の一環として、生徒会役員を中心とする代表が東成みらい会議に参加し、“郷土としての東成区を住みよい町にする”ための自分たちの意見を表明、発信させる。その内容を全校生徒にフィードバックさせ、学校全体の意識を高める。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 1 年度末の校内調査における「学級と生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上とする。
- 2 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。
- 3 大阪市英語力調査における CEFR (GTEC に読み替える) A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 80%以上とする。
- 4 年度目標アンケートにおける「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上とする。

学校園の年度目標

- 【実用英語技能検定】全校受検において、成果水準を維持しつつ、さらなる向上を図る。また、高校受験に活用できるように、全校受検の実施時期を見直し、受験に向けた学習意欲の喚起と進路指導への活用を推進する。
- 「言語力」向上のため、英語学習と国語学習の長所を相互かつ複合的に活用した授業を展開する。(コロナ禍の影響により制限していた取組みを再開する。)
- 言語力の育成を目指し、各教科で学んだ知識や技能を活用して、自らの考えを表現する場を意図的に設定する。ICT を効果的に活用し、発表や協働的な学習を通して、思考力・表現力を高める授業を展開する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 1 年度末目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 2 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

学校園の年度目標

- 学習者用端末の活用を日常的な授業の中に位置づけ、各教科において週に3回以上の活用を目安とした計画的な実践を行う。「ICT機器を活用した授業が多くあり、工夫を感じる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度（84.6%）以上にする。
- 教職員の心身の健康保持と業務の効率化を図るため、年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を90%以上維持することを目指す。また、すべての教職員が18時30分までに退勤できるよう、さらに業務の見直しと意識改革を進め、働きやすい職場環境づくりに努める。

本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

次年度に向けて

大阪市立本庄中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 1 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(8.3%)より減少させる。 2 年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校園の年度目標 1 現在の極めて落ち着いた教育環境を維持する。「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を95%以上とする。 2 体罰・暴力行為ならびに生徒の人格を深く傷つける暴言(威圧言動)や、服務遵守違反の発生率をゼロとする。「先生は『体罰・暴力行為、生徒の人格を深く傷つける暴言(威圧言動)を許さない』と強く感じる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を95%以上とする。 3 道徳教育の推進、指導方法の工夫改善、指導協力体制の充実（ローテーション授業）「先生は道徳心や社会性が養えるように、『道徳』などの授業を通じ、教えてくれている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生徒の状況を把握するため、教育相談やアンケートを実施し、いじめなどの問題行動や不登校の早期発見・早期対応に努める。 指標 全学年一斉の教育相談を年に2回、いじめ等アンケートを学期ごとに1回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】 問題行動の発生に際して、組織的で効率的な対応ができる体制を整える。 指標 (教員アンケートの肯定的パーセンテージを90%以上を維持する。) 学校全体で規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を目指す。	
取組内容③【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】 基本的生活習慣の確立を目指し、学校全体で規範意識を高める。 指標 予鈴前(8時25分)に登校する習慣を身に付けさせる。 (これに関する生徒アンケートの肯定的な割合の90%以上を維持する。)	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳の授業(年間35回以上)を学年の教員がローテーションで受け持ち、生徒に提示される課題について、多くの教員がそれぞれの個性や人格を通して授業展開を図る。また、学年会や委員会を通して意見交換したり、実施した授業内容についての記録を残したりして、道徳の授業力の向上に努める。 指標 「先生は道徳心や社会性が養えるように、『道徳』などの授業を通じ、教えてくれている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合(85%以上)を維持する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立本庄中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

達成状況

年度目標

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 1 年度末の校内調査における「学級と生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上とする。
- 2 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 0.1or0.01 ポイント以上向上させる。
- 3 大阪市英語力調査における CEFR（GTEC に読み替える） A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 80%以上とする。
- 4 年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上とする。

学校園の年度目標

- 1 【現状】の(1)～(3)の成果水準をさらに向上させる。
- 2 【現状】の(4)体力合計点について、男子も女子も 50 点以上とする。
【現状】学力・体力においては、各調査結果を大阪市、大阪府、全国の平均値と比較することによって、現状を明確にする。
(1) 令和6年度「全国学力・学習状況調査」において国語・数学とも全国平均正答率を裕に上回る結果を得た。
国↑3.9 数↑4.5 (全国比)
(2) 令和6年度「チャレンジテスト」は、全校的に府平均の正答率を上回る結果となる教科が多いが、学年間の差が見られることの改善を要す。
1年 国↑6.0 数↓4.2 英↓2 理↓7.6 社↓4.0
(理・社はチャレンジテスト plus)
2年 国↑4.8 社↑1.9 数↑3.9 理↑5.6 英↑2.5
3年 国↑3.4 社↓6.6 数↑2.7 理↑3.5 英↓1.9
(3) GTEC による英語力調査については下表に記すとおり、特段の好結果を挙げている。

英語力調査（GTEC）	B2	0人	大学での専門教育を英語で学べるレベル
	B1	0人	海外進学を視野に入れることができるレベル
	A2.2	1人	海外の高校の授業に参加できるレベル
	A2.1	9人	海外ホームステイや語学研修で楽しめるレベル
	A1.3	29人	ALT と日常的な会話をし、英語体験を楽しめるレベル
	A1.2	36人	身近な表現で簡単なコミュニケーションができるレベル
	A1.1	17人	身近な単語や定型表現でコミュニケーションができるレベル
	Pre-A1	10人	挨拶程度の簡単なコミュニケーションができるレベル

- (4) 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」【体力合計点】（中2）
男子：39.60 （大阪市 40.80 全国 41.04）
女子：42.95 （大阪市 47.00 全国 47.42）

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・大阪市の英語教育先進校として、さらに取り組みを発展させ、それを他校にも普及するため、今年度も英検の全学年実施を継続する。 指標 ・今年度、実用英語技能検定全校受検において、成果水準の維持と共に、さらなる向上を図る。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・読解・記述・コミュニケーション等に関する言語力の向上をさらに進める。 指標 ・生徒アンケートに「学校の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」に対し、肯定的に回答する生徒の割合について90%以上を維持する。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育の授業を充実させることによって、自ら進んで体を動かし、体力及び運動能力を向上させようとする意識を持った生徒を育成する。特に、筋力、筋持久力を伸ばすよう指導する。部活動の充実・活性化および適正化に努める。 指標 令和8年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、男女とも種目ごとの特性を考慮しながら運動に取り組ませ、そのいずれかで前年度大阪市平均を上回る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立本庄中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 1 年度末目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 70%以上にする。 2 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。 学校園の年度目標 1 タブレット、パソコンなどの活用により学習理解を深めることのできる生徒を育成する。 2 時間外勤務時間について、月 9 0 時間以上実施する教職員をゼロにする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・ ICT 機器の活用についての積極性を醸成する。	
指標 ・「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」 に対して肯定的に答える生徒を 80 パーセント以上とする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・教職員の健康保持のため、適切な労働時間を遵守する。	
指標 ・「残業時間の縮小に取り組めた。」に対して肯定的な回答をする教職員を 75 パーセント以上とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点